



副園長 奥村 綾

～運動会についての話し合い～

今年度の運動会の取り組み方について、昨年度の振り返りを基に、職員の運動会に対する思いを出し合いました。

- ・年少は保護者と離れることを嫌がる子どもが多かった。保護者も一緒に楽しめる運動会にしてはどうか。かつ子どもの成長も見てもらえるように。
- ・気分が乗らずに参加しない子に対して、させなくちゃではなく、どうしたらこの子が楽しんでくれるかな？という視点を持つことが大切。
- ・アナウンスや、BGM、プログラムなど子ども達の意見を取り入れながら、自分たちで作り上げたという経験が大切だと思う。
- ・その年によって、子どもの姿や子どもに対する願いは違うので、その年に合った内容になるのは当然の事。
- ・年少でしてきた個々のダンスや競技から、年中に上がってクラスで一つのことを成し遂げる姿を保護者にも見てほしい。
- ・保護者に何を見てもらいたいかを子どもからも聞きたい。等、様々な意見が出ました。

昨年度は、コロナ禍で大阪市から様々な制限があったため、内容的にも時間的にも『子ども主体で考えていくこと』に重点を置くことが難しい状況でした。また、本園の運動会は各学年のプログラム中、他学年は待機という形で進めていたため、三小小学校での園児待機場所の確保の難しさの中、10月とは思えない炎天下での園児の待機時間についても議題に上がりました。

今年度は、コロナ禍とはいえ具体的な制限はなく、運動会を『子ども主体』で進めていけること、また、『保護者と同じ時間を共有し、共に楽しめる日』と捉え、結果よりも過程を大切に進めていきたいと思えます。

年少組は、かけっこやリズム、玉入れや課題物リレー等のさまざまな運動遊びを経験することで、身体を動かす楽しさや気持ち良さを味わえるようにしています。当日は、それらの中からいくつかを広い運動場で、保護者の皆さんと共に楽しみたいと考えています。

年中組は、「小学校の運動場で何がしたい？」と聞いてみると、競争・パラバルーン・鬼ごっこ・踊り・自転車等、子ども達がしたい運動遊びがいろいろ出てきました。当日は、保護者の皆さんに見てもらおう喜びを味わったり、親子で一緒に楽しんだりできればと考えています。

年長組は、年少・年中の経験から9月に入って体操服を着て登園すると「今日運動会の練習するんやろ？」「先生、運動会何するん？」という子が何人もいました。運動会ってどんなイメージ？何がしたい？と子どもの意見を聞いてみました。「競争する」「リレーをする」「太鼓したい」「ポンポン持って踊りたい」「綱引きとか玉入れもしたい」等、様々な意見が出ました。今まで経験してきたことや憧れを抱いてきたこと等、子どもが考える運動会が実現できるようにサポートしていきたいと思えます。

今後は、昨年度の振り返りを基に子ども主体で、内容やプログラム順を決めていきますので、詳細につきましては後日のお知らせとなりますが、何を目標にどのような育ちを大切にしているかを、クラスだより等で随時発信し、『リアルな育ち』を保護者の皆さんに伝えていきたいと思えます。

大人も子どもも従来通りの運動会という固定概念に囚われることなく、子ども達が自分達で作り上げるという経験ができるように進めていきたいと思えますので、保護者の皆さんのご理解よろしくお願ひします。

～職員研修～

畿央大学の永瀨泰一郎先生をお招きし、『担任・副担任が抱える悩み』についてご助言いただきました。



〈ご助言を受けて感じたこと〉

- ・他のクラスの悩みや質問の答えが、自分のクラスにも反映できるような内容だったので、とても良い時間となった。
- ・ドキュメンテーションとポートフォリオの違いや、過程がわかるドキュメンテーションの作り方等、今後のクラスだより配信の参考になった。
- ・保育を通して、保育者も学んでいく姿勢を持つことの大切さを学んだ。
- ・子どもの遊びについて自身でも深く考えていくきっかけとなる研修内容だった。
- ・今の年長の育ちは、年中・年少での丁寧な関り・育ちのおかげというお話をいただき嬉しかった。今後も低年齢児の保育の丁寧さへの意識を園全体で高めていきたい。



～積み木研修～

キッズいわきぱふの津田氏に体験型の研修をしていただきました。実際に積み木を使って自己表現をしたり、3～4人ずつのグループに分かれて、協力しながら課題物（塔）を作り、そこから全体で街作りに発展させたりしました。また、さまざまなボードゲームをご紹介いただき、体験しました。先生達は、時間が経つのを忘れるぐらい夢中になって遊び込んでいました。

〈研修に参加した感想〉

- ・子どもが遊びから切り替えれずにいつまでも好きな遊びを続ける姿に共感した。
- ・積み木遊びの奥深さを知ることができ、自分自身の興味がより深まった。
- ・積み木の比率や階段の作り方を教えていただき知識が広がった。
- ・積み木・広げる・縮める等の設定した中で、仲間と同じ目的に向かって試行錯誤しながら楽しさを実感できた。
- ・ボードゲームでは、保育者同士で笑いあったり、時には夢中になって競い合い、悔しがったり喜んだりした時間がすごく良かった。

〈この研修を保育にどう生かすか〉

- ・玩具をどのタイミングでどのように子ども達に与えるか、育ちに合ったタイミングでいかに適した環境を作るか。
- ・積み木は積み上げるもので、壊すものではない。また、積み上げる過程で、積み木が崩れてしまった時「あーあ」という声掛けは適さない。「おいしい!」「もう一回しよ!」という前向きな言葉がけを心がける。
- ・自分達が体験したワクワクした気持ちを、子ども達にも味わえるよう保育者が一緒に遊ぶ中での関わり方や声掛けの仕方を大切にする。
- ・子ども達が集中して遊べる環境設定をし、継続して楽しめるようにする。
- ・積み木の片付け方や残しやすい環境構成について再構築する。



今後も、他園の公開保育や対面研修
オンライン研修等に参加し、自分自身のスキル
アップや保育の質の向上に努めていきたいと
思います。